

小児眼科・斜視フェロープログラム

<指導医> 吉川 知子

<研修目標>

小児の眼疾患、ならびに斜視の診断・治療が的確に行えるよう、専門的知識の習得と診療技術の向上を目指す。

<研修内容>

◆ 斜視診療に必要な専門的知識の習得

- ・外眼筋の解剖・作用について理解している
- ・両眼視機能の発達について理解している
- ・両眼視機能検査の適応判断と判定ができる
 - Bagolini 線条ガラス試験、大型弱視鏡検査、立体視検査
- ・弱視の診断と治療ができる
- ・屈折の適切な管理ができる
 - スキアスコープを用いた屈折検査ができる
 - 調節麻痺剤点眼下での屈折検査のタイミングについて理解している
 - 小児に対する眼鏡・治療用コンタクトレンズ処方ができる
- ・内斜視と外斜視の診断・定量と治療ができる
 - 乳児内斜視、調節性内斜視、急性内斜視、後天内斜視、感覚性内斜視
 - 間歇性外斜視、恒常性外斜視、感覚性外斜視、術後外斜視
 - A-V 型斜視
- ・上下斜視の診断と治療ができる
 - 交代性上斜位
- ・非共同性斜視の診断と治療ができる
 - 動眼神経麻痺、滑車神経麻痺、外転神経麻痺、複合神経麻痺
- ・眼筋麻痺を生じる症候群の診断と治療ができる
 - Duane 症候群、Brown 症候群、メビウス症候群、先天性外眼筋線維症
 - 重症筋無力症
- ・斜視手術の適応判断ができ、手術手技を習得する
 - 初回手術の術式選択
 - 再手術の術式選択
- ・ボツリヌス毒素治療の適応が判断できる
- ・眼振の診断と管理ができる
- ・色覚異常の診断と患者への対応ができる

◆ 小児眼科診療に必要な専門的知識の習得

- ・乳幼児期の視機能の発達について理解している
- ・胎生期の眼球の発生について理解している
- ・未熟児網膜症を含めた新生児期の眼の管理ができる
- ・眼の異常を生じる可能性のある遺伝子疾患・先天性代謝異常・症候群の診断ができる
- ・小児の電気生理学検査の適応を理解している
網膜電図(ERG)、視覚誘発電位(VEP)
- ・眼疾患を伴う全身疾患について理解している
- ・発達障害児に対する視機能評価、説明ができる
- ・小児のロービジョンケアについて理解している
- ・小児の眼外傷の特徴について理解している
- ・小児の眼腫瘍の診断ができる
網膜芽細胞腫、網膜血管腫、脈絡膜血管腫、脈絡膜骨腫、横紋筋肉腫、視神経膠腫
- ・小児眼科における超音波検査、CT、MRIの適応について理解している
- ・小児眼科における倫理的配慮（簡単な遺伝相談など）を行うことができる

◆ 小児眼科疾患の診断や視機能管理に必要な知識の習得

- ・小児の外眼部疾患
眼瞼内反症、霰粒腫、先天性眼瞼下垂、眼瞼血管腫、
- ・小児の涙器疾患
先天鼻涙管閉塞、新生児涙囊炎、先天性涙囊ヘルニア
- ・小児の前眼部疾患
先天角膜混濁、角膜ジストロフィ、全身疾患と関連する角膜異常
- ・小児のぶどう膜疾患
小児ぶどう膜炎
- ・小児の水晶体疾患
先天白内障、併発白内障、水晶体偏位
- ・小児の緑内障
発達緑内障、続発緑内障
- ・小児の網膜硝子体疾患
未熟児網膜症、網膜変性疾患、網膜硝子体の先天異常、全身疾患に伴う眼底異常
- ・小児の神経眼科疾患
視神経炎、眼球運動障害、眼振

<目標手術症例数（2年間）>

	執刀（例）	助手（例）
水平筋の短縮術もしくは後転術	16	20
上下直筋の短縮術もしくは後転術	4	6
斜筋手術	6	8
筋移動術	3	6

<学会・研究活動>

症例検討会、地方会：年1回の発表を目標

全国学会（小児眼科・斜視学会等）：年1回の発表を目標

論文作成：年1篇を目標

臨床研究

<研修評価>

年度末に、臨床面と学術活動の評価を指導医が行う。

<フェローの1週間スケジュール>

	午前	午後
月曜	手術	手術
火曜	外来	外来
水曜	free	free
木曜	手術	外来
金曜	free	free